

意見文における 「序列の接続表現」についての 文法面の評価

—日本語母語話者と中国語母語話者との比較を通じて

黄 明侠

●要旨

本論は、中国語母語話者が日本語で書いた意見文における「序列の接続表現」が文法面で低く評価された要因を探ることを目的としたものである。

文法面での評価結果を分析したところ、日中両言語の母語話者の意見文には全く異なる評価点数がつけられていたことがわかった。約9割の日本語母語話者の意見文が文法面で自然であると評価されたのに対して、9割以上の中国語母語話者の意見文が文法面であまり自然ではないと評価されていた。

日本語母語話者と異なる序列の接続表現を選択していたこと、文頭と文末がうまく対応していないこと、また、序列の接続表現の不適切な組み合わせ、内容の対等性などが文法面での低評価に影響を与える要因となっている。

●キーワード

意見文、序列、接続表現、評価、
中国語母語話者

●ABSTRACT

This study aims to clarify the factors which influence the low grammatical evaluation of sequences of connective expressions which Chinese native speakers use in stating opinions.

Through the analysis of the evaluated results on grammar, we find out that the evaluated scores on what Japanese and Chinese native speakers write are different. About 90% Japanese native speakers were evaluated good in grammar, but 90% Chinese native speakers were not good enough.

The factors which influence the low evaluation are that the both native speakers choose different sequences of connective expressions, that Chinese speakers have less correspondence at the beginning and the end of the sentence, and that they have fewer appropriate combinations of connective expressions and less equality of content.

●KEY WORDS

statements of opinion, sequence, connective expressions, evaluation, Chinese native speakers

The Grammatical Evaluation of Sequences of Connective Expressions in Statements of Opinion

The comparison of Japanese native speakers and
Chinese native speakers

HUANG MING XIA

1 はじめに

日本語で文章を書くとき、特に論の根拠を列挙して自分の見解を示すのに役立つのは、「まず」「第一に」などの序列の接続表現である。これらの序列の接続表現は一見難しくないように見えるが、日本語学習者が実際に作文を書くとき、これらの序列の接続表現をうまく使えないケースが少なくない。

黄 (2012) は、中国人日本語学習者の意見文に現れた序列の接続表現の使用を7つの項目に分けて評価し、その結果、7つの項目のうち、文法面が他の項目より低い評価を受けたことを示している。

そこで、本論では、中国語を母語とする日本語学習者（以下「中国語母語話者」とする）の意見文を日本語母語話者のものと比較し、中国語母語話者と日本語母語話者の意見文に現れた序列の接続表現の文法面に関する評価結果を中心に考察する。そして、両者の評価点数にどのような差が現れているのか、なぜそのような違いが出てくるのか、中国語母語話者が書いた意見文における序列の接続表現の文法面に対する評価が低い原因は何か、どのような要素が影響を与えているのかなどについて明らかにしたい。

2 先行研究

小林 (1987) は、本論で扱う序列の接続表現「まず」、「はじめに」、「次に」などを「副詞の下位分類の一つ」として「序列副詞」と称し、序列副詞の連文的機能について初めて本格的に論じたものである。

一方、木戸 (1999, 2001, 2002) は、列挙の文章構造と序列の接続表現の関係の本格的に取り上げた。木戸は、留学生と日本人学生に行った接続表現想定調査と作文調査を通して、読み手と書き手、理解と表現の両面から、文章構造の捉え方を分析・考察し、列挙の文章構造の多様性について述べている。

また、日本語記述文法研究会 (2009) は、本論で扱う序列の接続表現を「列挙の接続表現」と呼び、「1つの大話題の中で用いられ、後続部で小話題が順に提示されることを示す」と定義している。そして、「列挙の接続表現は、通

常、一般の接続表現とは異なる構造を備えている。一般の接続表現は、先行部と後続部とのあいだに現れるのが普通である。しかし、列挙の接続表現は、列挙される項目をくくる大枠を示す先行部に続いて現れ、大枠に該当する項目間の関係を示すものである」と、列挙の接続表現の特徴を示している。

さらに、石黒 (2005) は、列挙されている事柄の順序を入れ替えると、その論理的な意味が変わるかどうかによって、序列の接続表現を「順序を問わない接続語」、「順序を問う接続語」と「順序を問える接続語」の3つに分け、あり得る列挙の接続表現の組み合わせのパターンを示している。その組み合わせのタイプと特徴を次の表1のようにまとめている。

表1 序列接続表現のタイプと特徴

組み合わせのタイプ	意味用法	特徴	具体例
順序を問わない接続語	列挙されている事柄の順序を入れ替えてもその論理的意味が変わらないときのみ使われる	文章の中の箇条書き	「第一に」「第二に」「第三に」「また」など
順序を問う接続語	順序を入れ替えるとその論理的意味が変わってしまうときのみ使われる	順序性を重視した列挙	「最初に」「続いて」「次いで」「その後」など
順序を問える接続語	いずれでも使うことができる	箇条書き、順序いずれも可	「まず」「次に」「さらに」「最後に」「そして」など

これらの先行研究によって序列の接続表現の定義や特徴、文章構造との関係が明らかになったと考えられる。しかし、日本語学習者の作文に現れた序列の接続表現は文法上問題があるかどうか、問題があるとすればどこにあるのかに関する研究はこれまでほとんど行われていない。

そこで、本論では、中国語母語話者と日本語母語話者が書いた意見文を通して、両者の意見文に現れた序列の接続表現に対する評価に基づいて、それぞれの文法上の問題点と相違点について分析・考察する。

3 研究方法

3.1 調査対象者

本論は、日本語母語話者と中国語母語話者、それぞれ70名に書いてもらった「割り勘に関して自分の意見を述べる意見文」を分析対象とする。日本語母語話者は日本国内の大学に在籍し、社会科学を専攻する学部2年～4年生で、中国語母語話者は中国国内の大学に在籍し、日本語を専攻する学部2年～4年生である。中国語母語話者の学習歴を確認し、旧日本語能力試験で2級の目安とされている学習時間600時間以上の授業時間を経ている学習者のみを対象とした。

3.2 調査資料

以下は、本調査において利用した調査資料である。

親しい友達と2人で一緒に食事に行きました。会計をするとき、その友達が「割り勘にしない？」と言いました。そのとき、あなたはどうしますか。割り勘に同意しますか。それとも、自分がおごる、または相手におごってもらうように提案しますか。「割り勘」か「おごる（おごってもらう）」かのどちらかを選び、その理由を書いてください。

注意点：

- ア) 「割り勘」というのは、会計を半分ずつ負担する、または自分の食べた分だけ払うという意味です。「おごる」というのは、会計をすべて1人の人がまとめて払うという意味です。
- イ) 相手が先輩・後輩や同性・異性によって変わる場合は、親しい友達がどんな相手か、自由に設定して書いてかまいません。
- ウ) 理由はかならず3つ以上列挙して書いてください。
- エ) 600字以内で書いてください。段落を分ける場合、改行+1字下げではなく、▼で表記してください。

オ) 日本語と中国語、両方書いてください。(中国語母語話者のみ)

カ) ①、②、③などのような簡条書きを使わないでください。文章で書いてください。

3.3 研究方法

本論では、黄(2012)に基づき、大学院で日本語を専攻し、教壇に立っている日本語母語話者3名が、日本語母語話者と中国語母語話者各70名が書いた意見文を序列の接続表現に関わる7つの項目(①形態面、②文法面、③出現位置、④組み合わせ、⑤対等性、⑥包括性、⑦文章の全体構造)について5段階で評価した結果を用い、このうち②文法面に対する評価結果を中心に分析を行う(作文評価結果の詳細は黄(2012)を参照されたい)。

なお、②文法面に関する作文評価シート、作文評価基準の詳しい指示と注意点は以下の通りである。

②文法面：使用された序列の接続表現は文法面で自然か。

5 とても自然である 4 自然である 3 どちらとも言えない
2 あまり自然ではない 1 全く自然ではない

指示：使用された序列の接続表現が統語的な機能の面で自然かどうかを評価する(例えば、×第一に、割り勘は互いの財布に優しい。：あまり自然ではない→○第一に、割り勘は互いの財布に優しいという点がある)。

注：②文法面に関して、すべての接続表現が自然である場合、その程度に応じて「とても自然である」か「自然である」と評価してください。一方、不自然なものが1つでもある場合、その程度に応じて「あまり自然ではない」か「全く自然ではない」と評価してください。

4 評価結果分析

4.1 文法面に対する評価結果

日本語母語話者と中国語母語話者が書いた意見文について、文法面に対する5段階の評価結果は以下の表2のとおりである。

表2 両言語話者の序列の接続表現の文法面に関する評価結果

	意見文	
	日本語母語話者	中国語母語話者
評価該当者数	68名	61名
3点未満	0 (0%)	45 (74%)
3点以上4点未満	8 (12%)	13 (21%)
4点以上5点未満	42 (62%)	3 (5%)
5点満点	18 (26%)	0 (0%)

調査対象者が各70名であったが、序列の接続表現を全く使用していない者がいたため、文法面に関して、日本語母語話者の評価該当者数は68名であり、中国語母語話者は61名であった。

以下、日本語母語話者と中国語母語話者が書いた意見文に関して、文法面でのどのような評価点数がつけられたのか見てみる。

まず、「3点未満」（「あまり自然ではない」、「全く自然ではない」と評価されている調査対象者を見ると、日本語母語話者は全くいなかったのに対して、中国語母語話者の数は非常に多く、61名のうち45名（74%）もあった。つまり、約8割近くの中国語母語話者の意見文において序列の接続表現が文法面で不自然に使用されていると評価されていた。

次に、「3点以上4点未満」（「どちらとも言えない」と評価されている調査対象者を見ると、日本語母語話者は68名のうちの8名（12%）であったのに対して、中国語母語話者は日本語母語話者よりやや多く、61名のうちの13名（21%）であった。

また、「4点以上5点未満」（「自然である」と評価されている調査対象者を見ると、日本語母語話者は42名（62%）が序列の接続表現の使用に自然であると見なされたのに対して、中国語母語話者はわずか3名（5%）であった。そして、「5点満点」（「とても自然である」と高く評価されている日本語母語話者が18名（26%）いたのに対して、中国語母語話者は1人もいなかった。

これらの数字から、日本語母語話者と中国語母語話者の序列の接続表現における文法面の評価に関して、両者は全く異なる評価点数を得ていたことが明らかになった。つまり、序列の接続表現が自然に使用された「4点以上」と評価されている日本語母語話者は、60名（88%）であったのに対して、中国語母語話者の場合は非常に少なく、わずか3名（5%）であった。一方、「4点未満」と評価されている日本語母語話者が8名（12%）であったのに対して、中国語母語話者の場合は非常に多く、58名（95%）であった。中国語母語話者の序列の接続表現の使用には文法面で大きな問題があるということが示された。

4.2 文法面に対する評価結果分析

では、なぜ中国語母語話者が書いた意見文の文法面に対する評価が低かったのだろうか。以下、文法面の評価結果を中心に分析し、低く評価された原因を探ってみる。

4.2.1 選択された序列の接続表現との関係

前節で述べたように、3名（5%）を除いて、58名（95%）の中国語母語話者の序列の接続表現が文法面で自然に使用されていないと評価されていた。これは中国語母語話者が選択した序列の接続表現と深い関係があると思われる。意見文を書くとき、日本語母語話者の場合は、「一つ目」系列（20%）と「第一」系列（15.7%）の序列の接続表現が多く使用されていたのに対して、中国語母語話者の場合は、「まず」系列（42.9%）の序列の接続表現が多く使用されていた。

二通・佐藤（2000）は、「分類に使われる文型・表現」として、「項目を数え上げる（接続表現）：第一に、～。第二に、～。第三に、～。……」と「説明の順序を示す（接続表現）：まず、～。次に、～。それから、～。さらに、～。最後に、～。」の2種類があると指摘している。また、日本語記述文法研究会

(2009) は、「それから」はその場で1つ1つ思い出しながら列挙するとき用いられやすい」と述べている。しかし、日本語母語話者が書いた意見文を見ると、2番目の理由を取り上げるときに「それから」を使用した者は1人もいなかった。こうしたことから、「それから」は自分の意見を計画的に順序づけて述べるような意見文にあまり向いておらず、中国語母語話者の序列の接続表現の文法面で自然に使われていないと評価されたのではないかと考えられる。

また、黄 (2011:31) には、「日本語母語話者は時間的な順序性があるかないかを考慮し、時間的な順序性がある説明文(得意料理の作り方)では「まず」系列を選び、時間的な順序性がない意見文(割り勘の賛否)では「第一」系列や「一つ目」系列を選ぶのに対し、中国語母語話者は、時間的な順序性の有無にかかわらず、説明文でも意見文でも、同じように「まず」系列を選ぶという傾向が見られるのである」との指摘がある。このように、中国語母語話者の作文における最大の特徴としては、どのジャンルにおいても同じように「まず」「それから/次に」「最後に」という序列の接続表現を使用する傾向が強いということが挙げられる。つまり、ジャンルや文脈が変わることによって、使われる序列の接続表現が異なるということに関して中国語母語話者の把握が十分ではないのである。これとの関連で中国語母語話者の序列の接続表現は文法面で自然に使われていないと考えられる。

4.2.2 文末形式との関係

序列の接続表現とそれに対応する文末形式の関係も文法面の評価に影響を与える要因の1つであると考えられる。

次の例1と例2は文法面で3名の日本語母語話者に低く評価されたものである。例1を見ると、「まず」、「それから」、「最後に」それぞれに対応する文末形式は「ですけど」、「しましょう」、「なります」であり、例2を見ると、「まずは」、「そのつぎ」、「最後には」それぞれに対応する文末形式は「ありません」、「でしょう」、「ようです」である。このように、中国語母語話者に使用された序列の接続表現「まず」、「それから」、「最後に」などに対応する文末形式はバラバラになっていて、理由を取り上げる場合、文頭と文末がきちんと揃っていない印象を日本語母語話者に与える。そのため、文法面での低評価に繋がるの

ではないかと考えられる。

例1：中国語母語話者（評価が低かった例）

休みの日は、わたしはときどき友達と一緒にレストランに行きます。美味しいものを食べたとき、どちらがこの食事を払いますか、よく困ります。普段には、割り勘を選びます。理由は3つがあります。まず、みんなは学生ですけど、お金持ちではないですけど。それから、仲間がいいのに、何でも一緒に分担しましょう。最後に、お自分のこと自分で解決すれば、食べる時、雰囲気がよくります。以上です。

例2：中国語母語話者（評価が低かった例）

もし相手が親しい友達だったら、普通には私は「あたしおごるよ」という答えを選びました。それはなぜかという、以下のようにいくつかの面で説明できるかと思います。

まずは、お金というものは、ほんとうに気にすべきものではありません。お金がなかったら、また手に入れられるでしょう？ だから、もしそのせいで長い友情を傷つけるなんて、まさに無意義なことではないかと思います。

そのつぎ、一般的な友達から親しい友達まで、たくさんのお時間や精力もきつとかかるでしょう。「この人はほんとうに信じられるか」「この人はあたしの一生の友達になれるのか」なども自分で判断しなければなりません。先述べたものはすべて、普通の食事のコストより高くて大切ですよ。そういうわけで、もし相手が自分の親しい友達と確かめたら、私はきっと「私おごるよ」と答えます。

最後には、中国の伝統的な文化や、中国人の潜在意識の中には、割り勘は二人の遠さを代表しているようです。それは、この二人の人は、親友は言うまでもなく、友達ではなく知り合いだけなのですと表しているような気がします。つまり、面子の面ではおごることはもっと自然に思われます。

そういうわけで、私はおごることをより合理的なやりかただと信じて

います。

では、日本語母語話者はどうなっているのでしょうか。日本語母語話者が文法面で5点満点と高く評価された14名^[註1]の意見文に現れた序列の接続表現とそれに対応する文末形式を次ページの表3のようにまとめた。

表3からわかるように、14名の日本語母語話者のうち、7名が「一つ目」系列、6名が「第一」系列を使用した。また、「一つ目」系列、「第一」系列にかかわらず、それぞれに対応する文末形式の多くは「～からである」あるいは「～ためである」であった。

表3 日本語母語話者の意見文における序列の接続表現とそれに対応する文末形式

調査者	序列の接続表現	文末形式	調査者	序列の接続表現	文末形式
①	1つ目の理由は 2つ目の理由は 3つ目の理由は	ことです からです ことです	⑧	1つ目の理由は 2つ目の理由は 3つ目の理由は	からだ ためである ためである
②	1点目として 次の理由として 最後の理由として	挙げられます あります 挙げられます	⑨	1つ目は 2つ目は 3つ目は	からである からである からである
③	まず1つ目の理由は 2つ目の理由は 3つ目の理由は	からだ からだ からだ	⑩	第一に 第二に 第三に	からである からである からである
④	第1に 第2に 第3に	からである からだ からである	⑪	第一の理由は 第二に 第三に	からです からです からです
⑤	第一に 第二に 第三に	ためである からである ためである	⑫	第一に 第二に 第三に	からです からです からです
⑥	1つ目は 2つ目の理由は 3つ目に	からである からだ からだ	⑬	1つ目に 2つ目に 3つ目に	からである からである からである
⑦	1つ目は 第2に 第3に	ためである からである からである	⑭	第一に 第二に 最後に	からです からです からです

例3と例4は日本語母語話者が文法面で5点満点と評価された例文である。これらの例文を見ればわかるように、割り勘の賛否の理由を列挙する場合、「一つ目の理由は／第一に～から／ことである」のように名詞述語文で列挙することは読み手にとって「とても自然」であり、文章が理解しやすくなり、文章の全体構造の把握にも役立つと思われる。

例3：日本語母語話者（評価が高かった例）

ここでは、親しい友達を、互いにありのままの自分を見せることのできる間柄にある友達だと設定する。親しい友達の「割り勘にしない？」との提案に、私は賛成する。以下、理由を三点述べる。

第一に、自分で食べた料理の代金は自分が支払って当然だからである。人におごられようと考えて食事に行くなど、言語遮断である。

第二に、同じ立場にあるのに、片方がおごることは可笑しいと思われるからである。例えば、上司と部下、先輩と後輩のように上下関係がある場合や、どちらかが無理に相手を食事に誘った場合などは、おごるという行為がなされることもしばしば起こるし、起こっても良いと思う。しかし、本件のように親しい友達という対等な立場にある人同士がおごったりおごられたりしたら、おごられた人には相手に対して申し訳ないという気持ちが生じかねない。

第三に、発言した相手が親しい友達だからである。仮に発言者が弟や妹、後輩などだった場合、自分はおごってあげたくなくなるのだが、親しい友達の場合は、前者の場合と異なって相手におごってあげたいという感じることはない、良かれと思っておごることが、相手にとってはお節介になる可能性もある。

以上の三点より、割り勘に賛成する。

例4：日本語母語話者（評価が高かった例）

自分は割り勘に同意します。主にその理由は3つあります。

1つ目の理由は、割り勘が公平だということです。金銭面に対する感覚というのは人それぞれですが、自分も含め、なかには金銭面に対して厳

しい人もいます。親しい友人同士でも意外とお互いの金銭感覚については分かっていないことが多く、トラブルになりやすいのか実情です。そのため、公平な割り勘を選ぶのが無難だと言えるのではないのでしょうか。

2つ目の理由は、自分が損をしないからです。前述したように、自分は金銭面に対しては少し厳しい感覚をもっています。そのため、自分が他人よりも多く出費することになると、気になってしまい、ストレスにさえなってしまうのです。

3つ目の理由は、おごる、おごられるという行為が気をつかう行為だということです。特に、おごられる側というのは気をつかいます。親しい友人間で無用な気遣をしたくないので、割り勘が無難だと思います。

以上3つの理由から、自分は割り勘を選択するのが良いと思います。

また、序列の接続表現と文末形式の対応について、アカデミック・ジャパニーズ研究会（2004）では、以下のように述べている。

数字を使っていくつかの物事を列挙する時に用いる文型では、

第一は……N/Vこと/Aことである。

第二は……N/Vこと/Aことである。……のように「は」を使う場合、文末は原則として、「名詞+である」の形になる。

第一に/第一には、……。第二に/第二には、……。……のように「に/には」を使う場合は、文末の形は自由である。

一方、「数字を使わずにいくつかの物事を列挙する時に用いる文型では、まず、……。また、……。さらに、……。について各文の後に、それぞれの物事を説明する文がいくつか入るのが普通である。

ここでは、「第一は」に対応する文末形式は「名詞+である」、「第一に/第一には」に対応する文末形式は自由であると指摘されているが、「まず」「また」などに対応する文末形式について特に触れていない。

一方、文法面で高く評価された中国語母語話者2名^[註2]の意見文は以下の例5と例6である。例5と例6を見ると、この2名の中国語母語話者の意見文では、

「まず/第一の理由は」「次に、二つ目/第二の理由は」「三つ目/最後の理由は」という序列の接続表現が文頭に来て、「～からである」という文末と対応していることは日本語母語話者と同様であることがわかった。

以上見てきたように、中国語母語話者の序列の接続表現の使用が文法面で低く評価されたのは、「まず」「また」などのような序列の接続表現に対応する文末形式が自由に使われ、文頭と文末がきちんと整っていないことと深く関係していると考えられる。また、表3を見ると、日本語母語話者は「第一に」を使っても文末形式は統一する傾向があるようである。したがって、「理由を列挙する」というスタイルの文章の特徴として、どの種類の序列の接続表現を使っても、文末形式を統一できるかどうかが中国語母語話者の序列の接続表現に対する評価結果に影響を与えるのではないかと考えられる。

例5：中国語母語話者（評価が高かった例）

やはり「俺がおごってやるぜ。」と答える。

なぜかという、まず、親しい友達だから、割り勘ってちょっと水臭い感じだからである。割り勘というのは、払うときもお釣りを分けるときも二人でめんどくさいから、今回は自分、次回は相手といったほうがいいと思う。ですが、相手が親しい友達ということが前提である。親しくない場合は次回があるかどうかは分からないから、そうはしない。

次に、二つ目の理由は、私はそういう性格だからである。中国の北の方の出身だから、人におごるのが習慣だ。

三つ目の理由はちょっと複雑だ。親しい友達だから互いにおごるべきだと仮定したら、相手が「割り勘」と言い出したのはたぶんお金に余裕がないのではないだろうか。だから、おごるのだ。

以上の理由で、「俺がおごってやるぜ」って答えるのだ。

例6：中国語母語話者（評価が高かった例）

ある人と一緒に食事をして、会計をするとき、「割り勘」か「おごる」かどちらがいいかと問われて、相手が先輩、後輩や同性、異性によって答えも違います。今から、相手が異性の場合に足して、その結果と理由

を書きます。

相手が異性の場合、私は相手におごってもらうことにします。その理由は三つあります。第一の理由は男性は女性より生理的に強いし、社会の主体の地位を取っているからです。私のこの意見はたぶん女権論者に響きをかみかもしれませんが、その意見は今の実状です。第二の理由は多くの男性は紳士的な態度を持って、女性が払わないでほしいというからです。女性は自分で払ったら、逆に男性が不安になりがちです。最後の理由は、もし女性が割り勘にして、相手の男性に迷惑をかけたかもしれないというからです。その原因は、男性は女性に払われてからたぶんもっと高いプレゼントを買ってその女性にお返しとしてあげます。女性の払う理由はこの男性に一度も会いたくないかもしれませんが、かえって本末転倒でした。

それで、私は相手におごってもらいたいという考えを持っています。

表4 中国語母語話者が書いた意見文における各項目の相関分析の結果

	形態面	文法面	出現位置	組み合わせ	対等性	包括性	全体構造
形態面	1	—	—	—	—	—	—
文法面	.431**	1	—	—	—	—	—
出現位置	-.053	.248	1	—	—	—	—
組み合わせ	.560**	.491**	.503**	1	—	—	—
対等性	.233	.569**	.597**	.573**	1	—	—
包括性	-.025	.156	.547**	.361**	.475**	1	—
全体構造	.192	.423**	.585**	.430**	.843**	.514**	1

注：N=57

**p<.01

4.2.3 その他の項目との関係

中国語母語話者が書いた意見文における序列の接続表現の文法面は7つの項目のうちどの項目と緊密な関係があるのかを調べるために、中国語母語話者が書いた意見文における評価基準の各項目の相関係数について、7つの項目すべてについて評価されている作文を取り上げ、分析を行った。その結果は以下の表4の通りである。

表4からわかるように、中国語母語話者が書いた意見文における序列の接続表現の文法面は、序列の接続表現の組み合わせと内容の対等性と特に高い相関関係を持っている。「まず」系列の2番目に一般的な「それから」「次に」が来ない場合、あるいは来たとしても3番目に「その次」「おまけに」など、不自然なものが来ている場合のような序列の接続表現の不自然な組み合わせと、序列の接続表現の後に来る内容が対等なレベルのものでないことが重なった結果、文法面の低評価につながったのではないかと考えられる。

5 まとめ

本論では、日本語母語話者と中国語母語話者が日本語で書いた意見文に対する序列の接続表現の文法面での評価結果を中心に分析・考察を行った。その結果、両者は全く異なる評価点数がつけられていたことがわかった。具体的には、60名(88%)の日本語母語話者が使用した序列の接続表現は文法面で自然であるのに対して、中国語母語話者の場合は非常に少なく、わずか3名(5%)であった。一方、文法面であり自然ではないと評価された日本語母語話者は8名(12%)であったのに対して、中国語母語話者の場合は非常に多く、58名(95%)であった。

中国語母語話者の意見文の文法面で低評価に影響を与えた要因として、日本語母語話者と異なる序列の接続表現を選択したこと、序列の接続表現の文頭と文末がうまく対応していないことがある。さらには、序列の接続表現が不適切な組み合わせになっていること、序列の接続表現の後に来る内容が対等なレベルのものでないことも関連していると思われる。

〈ハルビン師範大学〉

注

[注1] …… 序列の接続表現の文法面に関して、5点満点と高く評価された日本語母語話者は18名であったが、ここで14名のデータを取り上げたのは、他の4名は

序列の接続表現を1つあるいは2つしか使っていないからである。

[注2] …… 序列の接続表現の文法面に関して、3名の中国語母語話者が「自然である」と評価されたが、1名が序列の接続表現を1つしか使っていないため、ここではこの2名の例を取り上げることにした。

参考文献

- アカデミック・ジャパニーズ研究会（編著）（2004）『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク
- 石黒圭（2005）「序列を表す接続語と順序性の有無」『日本語教育』125, pp47-56. 日本語教育学会
- 木戸光子（1999）「接続表現と列挙の文章構造の関係（1）」『文芸言語研究言語篇』36, pp.69-87. 筑波大学文芸・言語学系
- 木戸光子（2001）「接続表現と列挙の文章構造の関係（2）」『文芸言語研究言語篇』40, pp.41-55. 筑波大学文芸・言語学系
- 木戸光子（2002）「接続表現と列挙の文章構造の関係（3）」『文芸言語研究言語篇』42, pp.51-62. 筑波大学文芸・言語学系
- 黄明侠（2011）「意見文における中国語母語話者の序列の接続表現の選択—日本語母語話者との比較を通じて」『専門日本語教育研究』13, pp.25-32. 専門日本語教育学会
- 黄明侠（2012）「中国人日本語学習者の作文に見られる序列の接続表現使用の問題点—日本語母語話者の評価から」『留学生教育』17, pp.61-71. 留学生教育学会
- 小林典子（1987）「序列副詞—「最初に」「特に」「おもに」を中心に」『国語学』151, pp.15-29. 日本語学会
- 二通信子・佐藤不二子（2000）『留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
- 日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法7 談話・待遇表現』くろしお出版